

## 1996年度「住まいと健康フォーラム」 総会・全国フォーラム報告

緑があざやかさを増す1996年7月12日、国立公衆衛生院3階講堂にて1996年度の「住まいと健康フォーラム」総会と全国フォーラムが開催されました。

当日は暑さのなか、約90名の参加者が集まり、熱心に議論を行いました。

まず1年のしめくくりとして総会を開催しました。

総会は東京都中野区保健計画課の箕形さんが司会を行い、はじめに公衆衛生院建築衛生学部の松本さんからあいさつがありました。

その後、1年間の事業報告を横浜市南区保健所の本間さんが、会計報告を東京都板橋区高島平保健相談所の左藤さんが、また会計監査報告を信州大学の入江さんがそれぞれ行い質疑のあと、承認を受けました。

次に、本年度の事業計画及び事業に伴う会計執行について東京都江戸川区江戸川保健所の田代さんから説明があり、質疑の後、承認を受け、総会を終わりました。

次に司会を国立公衆衛生院の鈴木さんに交替し、全国フォーラムに入りました。

はじめに、今回のフォーラムの開催場所である国立公衆衛生院の古市院長から全国フォーラムの開催についてのごあいさつをいただきました。

今回の全国フォーラムのテーマに触れ、現場での情報の重要性や、総合的に住まいをどう改善して行くのかを考える必要性について、お話しをいただきました。

続いて、厚生省生活衛生局企画課の金井さんより、住まいと健康に関する厚生省の最近の動きを含めて、ごあいさつをいただきました。

平成7年からの「快適で健康的な住宅に関する検討会議」のねらい、その中における衛生基準の設定の進捗状況、室内汚染物質の研究、他の省庁との連携（建設省中心の健康住宅研究会の設置）等のポイントが話されました。

その後シンポジスト及びコーディネーターの紹介が行われ、コーディネーターの品川区荏原保健所の國弘さん（環境衛生監視員）の進行で、「住まいと有害化学物質」をテーマにシンポジウムが開催されました。

最初に日本住宅新聞社編集委員の阿部さんから、現在の有害化学物質に対する工務店や建築業界の動き、及び建材と有害化学物質の関係についてお話をいただきました。

「有害化学物質についての工務店の認識は、非常に熱心に取り組んでいる工務店とビジネスチャンスと考えている工務店群と、全く意識や知識のない工務店の3種に大きく分かれる。しかし、意識はしていないが、経験的に化学物質を使わない施工を行っている工務店もある。

ハウズビルダーについては、一般的に有害化学物質についての意識は持っている。その背景としては住宅の高気密・高断熱が進んだことがあげられる。

業界団体としては、「健康住宅推進協議会」や「健康住宅普及協会」等があり、熱心な取り組みをしている。

VOCに関する実態は、住宅関係団体にアンケートを行ったところ（母数：29社）、約半数の会社から、建材のVOCによるクレームを受けたことがあるとの回答を得た。また、1/3の会社から、化学物質過敏症関係の回答を得ていて非常に高率であると感じた。

建築家の動きとしては、ベークアウトを行った後の室内住居環境の調査を行ったグループも出て来ている。同様の趣旨で自然材料を使った住宅を研究しているグループもある。

どのような建材が活用できるかは、今回の資料を参考にしてほしい。

現在多く使用されている建材は、強度や均質性が高いなどの理由で加工されているものが多く、そのために木材がもともと持っている利点が生かせなくなっている。単一性能だ

けで考えず、総合的に考える必要がある。

逆に木の成分が全ていいものとは限らないことも知っておく必要がある。(木の香りも一種のVOCである)濃度が高いと運動に支障が出るということが実験されている。

JAS規格のベニヤの等級は古くからあるが、ホルマリンの放出が少ないF1合板はなかなか売れない。海外からのものもあり、意識さえあれば普及は進むと思われる。クロスについては壁装材料協会の自主基準が定められた。

業界全体としても建材の選択、家の造り方等によってこの問題に対応しようという動きは出て来ている。」

続いて、北里大学医学部眼科学教室の難波さん(医師)より、化学物質の花粉症等への影響及び化学物質過敏症そのものについて、多数のスライドを使って、話がありました。

「スギ花粉症が近年爆発的に増加したのは、人口の増加やスギの植林面積では説明がつかない。そこで農薬に着目し、有機リン系の殺虫剤との関係を疑った。

モルモットを使った実験では、明らかに有機リン系の微量な殺虫剤が花粉症(アレルギー性結膜炎)の症状を悪くしていた。

同様に、食品色素やタバコ煙、芳香剤、電磁波についても、症状を悪化させる因子として影響することが実験上確認された。(空気中の殺虫剤[芳香剤でも使用]<パラジクロルベンゼン>は濃度にあわせて血液中に取り込まれることも人間で実験済みである。)

アメリカやヨーロッパでは10年以上前から、化学物質が過敏症を起こすことが知られている。症状は様々であり、特徴がないため、判定は難しい。アレルギーに近いものもあるが、中毒に近いものもあり、その中間的なとらえ方が妥当ではないか。

実際の例としては、床暖房使用時に具合が悪くなる人の住まいを調べると、床下のシロアリ駆除剤が大量に室内に入ってきていたものがあつた。この時も相談される側に化学物質過敏症を疑う気持ちがあれば、問題発見ができるが、意識がないと見つからない。

アメリカやドイツには専門の治療施設がある。壁や天井はホーロー引きやしっくいであり、その他の内装も自然物を使うなど十分注意が払われている。

化学物質過敏症については、自分の住居内はもちろんだが、環境問題全体を考えていく必要もある。」

次に横浜国立大学の堀さん(工学部教授)から、室内汚染の実態調査結果、及び化学物質の現場での測定方法を中心に話がありました。

「VOCなどを考える時には、まず物質の蒸気圧から揮発しやすいものかを問題にする。

VVOCは沸点が50℃~0℃程度の極端に揮発性の高い物質として区分する。いわゆるVOCは沸点が250℃~50℃程度のものを言い、建材由来のものは、ほとんどここに入る。また、有機リン系の殺虫剤や可塑剤は400℃~250℃程度の沸点で、難揮発性(少しは揮発していく)有機化合物である。この3種で、測定法も捕集法も異なる。

室内での濃度を測定すると、最も高いのはこの区分におけるVOCである。

建築後の時間経過でいうと3カ月でおおむねVOC濃度は下がり、1年後にはほぼ一定となる。ただしホルムアルデヒドを接着剤に使ったベニヤは、3~4年後でも、放出を続けるものが多い。これはベークアウトでは解決しない。

現場でのサンプリング方法としては2つある。1つは悪臭測定用のバッグにサンプリングし、短時間中に測定を行う方法だがこれは瞬間値測定である。もう1つは労働環境測定用の活性炭チューブ等に長時間サンプリングし、溶媒抽出してガスクロで測定する方法で、これは1日ないし一定時間の平均的濃度が測定できる。

現場での測定方法は、現在はまだいい方法はない。現在市販されているものとしては、FID(水素イオン化検出器)、マルチガスモニター(光音響法)があり、連続測定できるが、全部の有機物を測ってしまうので、有毒なVOCの量を測るのには工夫がいる。

VOCの評価はヨーロッパが最先端であり、ガイドラインがある。

空気清浄器はガスにはほとんど効かない。脱臭装置と言われるものもホルムアルデヒドには全く効かないことも知っておいてもらいたい。かえってオゾン発生の危険性もある。

VOCの測定システムを整備しようと考えている。サンプリングは現場が行い、測定だけを専門の機関が行うシステムを確立、普及したい。」

この後、國弘さんの進行でフロアからの質問への回答を行いました。

質問は、なぜ現在化学物質過敏症がこれ程問題視されているのか、低ホルマリンの合板使用の課題、複合建材の問題、アトピー性皮膚炎の増加との関係、化学物質過敏症の定義、化学物質過敏症の発見方法・相談先・診断方法、新築後の住宅内のVOC濃度の動き、検知管の使用、ホルムアルデヒドの除去法などがあげられました。

フロアからは、横浜市の保健所のホルムアルデヒドの調査活動、東京都の保健所のVOCへの取り組みが報告されました。

最後のまとめとして、測定システムの確立、良質な建材のコストを下げることで、相談先を充実・拡充していくことなどの必要性がシンポジストから指摘されました。

議論は尽きず、予定時間を30分ほど超過してシンポジウムを終わりました。

最後に、事務局の松本さんの閉会のあいさつをもって、全国フォーラムを終了しました。また、その後別棟の食堂で25名の参加を得て懇親会を開催しました。

「住まいと健康フォーラム」の新しい年度を祝うとともに、より充実した活動を展開することを確認し、散会いたしました。

## 公開フォーラムスタディのお知らせ

**日時：9月30日（月）18:30~21:00**

**場所：国立公衆衛生院 2階第一講義室**

### **基調報告**

**テーマ：「住まいと健康」に関する事業の展開**

－保健婦・環境衛生監視員・主治医の連携による喘息患者の居住支援－

**講師：仙台市青葉区保健福祉センター 衛生課 環境衛生係 稲垣 宏氏**

「市民ニーズに合致し、地域特性を生かし、将来に発展性がある。」

このような事業を組み立てるのは容易なことではありません。しかし、着実に事業を展開している自治体も少なくありません。

フォーラムニュースによる「事業・構想の紹介」の呼びかけに応じていただいた自治体から、活動を報告していただけることになりました。

多くの方にご参加いただき、活発なディスカッションが繰り広げられることを楽しみにしています。問い合わせは住まいと健康フォーラム事務局まで。

## 大阪フォーラム：公衆衛生学会「住まいと健康」自由集会 案内

**日時：10月31日（木）18:00~20:00**

**場所：千里ライフサイエンスセンター801号室  
千里中央駅下車徒歩1分**

貧しい住宅が人々の健康を阻害する。これは昔から指摘され続けて、今なお解決していない課題です。最近では、高気密高断熱の近代的な住宅がアレルギーや呼吸器系疾患を多く作りだし、化学物質過敏症対策等が急務になっています。段差の多い我が国の住宅様式が高齢者の在宅ケアを阻み、高層の集合住宅居住が乳幼児の自立心の発達を妨げるなど、住まいに関する健康上の問題は、より大きな広がりを見せています。

これら住まいの問題は建築行政、建築技術者、不動産業者、住宅メーカーに委ねていては何も解決せず、むしろ問題が蓄積されるばかりです。医療、保健、福祉などの現場従事者、研究者こそが住宅問題の第一線に立つ必要があります。

当日は住まいと健康に取り組んでいる各自治体の中から先進的な事例を報告していただきます。住まいは家族生活、社会生活、健康確保等の基盤であり人権です。

住まいと健康フォーラムの会員が中心となって、多数の方が集まることを期待しております。問い合わせは、住まいと健康フォーラム事務局まで。

日本住宅会議総会を「住まいと健康フォーラム」が後援しますので、ご案内します。

★日本住宅会議1996年度総会

**「住まいと健康-住宅近代化の盲点」ご案内**

日時：11月30日(土) 11:00~17:00

場所：国立公衆衛生院 3階講堂・第1講義室

参加費：会員 500円 非会員 1000円

主催：日本住宅会議 事務局/大阪府柏原市旭ヶ丘4-698 大阪教育大学 岸本研究室気付

後援：住まいと健康フォーラム

プログラム

- |             |   |
|-------------|---|
| 10:30~      | 受付開始                                      |
| 11:00~11:30 | 総会(活動報告・会計報告・次年度活動方針・その他)                 |
| 昼食休憩中       | VTR『新住宅難時代』(NHK1967年)放映                   |
| 13:15~17:00 | シンポジウム「住まいと健康-住宅近代化の盲点」                   |
| ■主題解説       | 「住まいと健康-住宅近代化の盲点」<br>松本恭治(国立公衆衛生院 建築衛生学部) |
| ■報告         | 「現代の居住環境と化学物質過敏症」<br>難波龍人(北里大学医学部 眼科学教室)  |
| ■報告         | 「安全で健康な住まいづくり運動」<br>佐藤 清(テクノプラン建築事務所)     |

なお会場から住まいの複合汚染の被害に遭われた方からも発言いただく予定です。

問い合わせ先 日本住宅会議1996年度総会実行委員会

事務局/国立公衆衛生院建築衛生学部 鈴木晃・松本恭治 ☎03-3441-7111 内線276

★事務局だより★

総会を経て、本年も会員の皆様のご寄付による運営を続けることになりました。

振り込み用紙を同封しましたので、皆様のご協力をお願いいたします。

1口1,000円で2~3口のご協力をいただければ幸いです。

フォーラムの維持のために、ご協力をよろしくお願いいたします。

フォーラムニュースは会員の職場に送付しています。異動等で送付先が変わる場合は、必ず事務局にFAXでご連絡ください。名簿整理にご協力ください。

昨年の会則変更によって、会員の範囲が自治体職員全体に広がりました。住宅関係部局や福祉関係、建築関係部局の方も入会できます。総会資料や、全国フォーラム資料を利用し、会員の拡大に関し、現在の会員のご協力をお願いいたします。

全国フォーラムの資料が若干残っていますので、希望の方にお分けします。資料代・送料として合計500円以上の切手を添え、下記までご連絡ください。なお、残部がなくなり次第終了します。

〒106 東京都港区六本木5-16-45 麻布保健所 環境衛生 五味 武人

☎03-3408-6146 FAX03-3585-4449

**事務局**

〒108 東京都港区白金台4-6-1

国立公衆衛生院 建築衛生学部 住宅衛生室 松本恭治 鈴木晃

電話 03-3441-7111 内線277 FAX 03-3446-4314

✍事務局不在のことが多いので、ご連絡はなるべくFAXでお願いします。